

# 平成21年6月17日

## 会議録 審査内容

### ◇会議録

- 1 日 時 平成21年6月17日  
開会 15時31分 閉会 16時46分
- 2 場 所 幕別町役場5階会議室
- 3 出席委員 6名  
委員長 前川雅志 副委員長 斉藤喜志雄  
委員 中橋友子 中野敏勝 芳滝 仁 杉坂達男  
  
議長 古川稔
- 4 欠席委員 なし
- 5 傍聴者 千葉幹雄 増田武夫 藤原 孟 谷口和弥 野原恵子  
堀川貴庸 牧野茂敏 乾 邦廣 助川順一 前川敏春  
大野和政
- 6 事務局 局長 堂前芳昭 課長 仲上雄治 係長 金田恭之
- 7 説明員 幕別町長 岡田和夫 副町長 高橋平明  
企画室長 佐藤昌親 建設部長 高橋政雄 経済部長 飯田晴義
- 8 審査事件 議案第46号 町道の路線廃止及び変更について  
陳情第10号 町道豊町16号通廃止反対の陳情書  
陳情第11号 コープさっぽろ札内店出店の早期実現を求める陳情  
陳情第23号 コープさっぽろ札内地区出店に反対する陳情書  
陳情第8号 パークゴルフ場「エルムコース」の復元について
- 9 審査結果 別紙

委員長 前川雅志

# 審査の経過

(平成21年6月17日 15:31 開会)

[開会]

○委員長(前川雅志) ただいまから、産業建設常任委員会を開催いたします。

本日の議案につきましては、お手元に配布のとおりでございます。

[議題の宣告]

○委員長(前川雅志) これより、議事にはいります。

それでは、本委員会に付託されました議案第46号、町道の路線廃止及び変更につきまして議題といたします。

6月15日委員会に引き続きまして、質疑を行いたいと思います。

質疑のある方は、挙手をお願いいたします。

○委員(杉坂達男) 前回6月15日の委員会では、本委員会の決議として本件にかかる問題では、説明の継ぐ点はないのか、あるいはこの環境をするにあたっては、十分な対応ができていないか等についての心配が議論されました。

については、理事者側のなお一層の努力を求めるよう要請をするよう、このように委員会の決議があったとおりでございます。

その関係について求めます。

○委員長(前川雅志) ただいま、杉坂委員の方からこの案件に関わります住民、商工会並びに地域関係者などに対する説明をもう少し丁寧に行っていただきたいということで、委員会として要請をさせていただいたところであります。

それにつきまして、理事者側からのご回答をいただきたいと思います。

休憩いたします。

(15:33 休憩)

(15:34 再開)

○委員長(前川雅志) 休憩を解いて再開いたします。

高橋副町長。

○副町長(高橋平明) 私の方から町の努力を求めるということでございますけれども、廃道がもしなかった場合に、当然、商業店舗が建築されることになろうかというふうに思っております。

その際に、まず廃道が決定になってから4カ月間の公示期間がございますのと、それから、詳細なその出店計画そのものがまだ当然示されておりませんし、そういったものについての、当然周辺にお住まいの方がたからのご心配、いろんなご意見、あるいはそういったものを聴取する場、これは出店者もやらなければならないことですが、町といたしましても道路がなくなることは当然ご不便をおかけすることですけれども、環境が変わることに対して、大きく変わることがないように、なおかつ、周辺にお住まいの方がたが納得をいただけるようなそんなようなことで開発事業者側とも接触をさせていただきますし、もちろん周辺にお住まいの方がたのご意見もお伺いながら、それを店舗出店計画づくりに反映をさせていただけるようお願いをしてみたいとふうに考えております。

○委員長(前川雅志) よろしいでしょうか。

杉坂委員。

○委員（杉坂達男） 今の副町長のご意見は、当然私どもも先刻承知している内容と同じであります。

したがって、これらについてを求めることになる部分もありますけれども、この非常に重大な事案であることにあわせ、我々に提案される期間というのは短いわけですし、我々の判断としても非常にその短い期間でその判断を求めて、あるいは付託された期間というの、もちろん短いわけですから、そういうものに資するためにはもう少しその理事者側のそのやはり真剣姿勢、あるいは誠意、熱意、そういったものが正直言ってこの委員会に届いてこない部分がある。

そういうことを察して、私は理事者に要請を申し上げるようこの委員会の決議を求めたわけでありますから、その関係についてはたまたま今日は町長がおいでですから、町長からご意見を賜りたいと思います。

○委員（杉坂達男） 岡田町長。

○幕別町長（岡田和夫） 私の方からお話をさせていただきたいと思います。

今、私どもまちづくりを進める上では、当然のことながら第5期の総合計画を指針としながらまちづくりを進めていくわけであります。

その中で、今厳しい社会経済状況にあり、さらには今までも議会の中でいろんな面で雇用、あるいは企業誘致、あるいはこれからの日本の人口はどんどん減っていくわけであります。

そんな中で、定住を促進しながら何とか町を活性化していく、そういったことが私どもに求められている大きな課題であろうというふうに思っております。

そうした中で今回、この生協が幕別町に進出したいというようなお話を賜ったときに、私は労働者の皆さん、働く場を確保する、あるいは地域を活性化する、あるいは未利用地を一体的に開発をする、あるいはこれからのまちづくりを進める、定住促進を進めるためには働く場の確保、あるいは今回の議会でもいろいろご提言お話がありましたように、福祉政策を始めいろんなこう住民の皆さんが住んでよかったと、住みよい町であるであるということがこれからのまちづくりで大変大きな問題であろう、課題であろうというふうに思っております。

したがって、私どもは町道廃止という大きな問題も確かに抱えていたわけでありますけれども、何とか地域住民の皆さんのご理解をいただく中で、これらを踏まえた中で、本生協の設置について議会のご理解をいただければというふうに思っているところであります。

もちろん、商工会から出されました要請についても、これは重く受け止めなければならないと思うわけであると思っております。

しかしながら、何とかこう大型店があれば小型店がなくてもいいなんてことはもちろんありませんし、小売店が果たす役割、大型店が果たす役割、それぞれがあるのだろうというふうに思います。

もちろんその共存共栄なんて言葉が正しいかどうかはわかりませんが、そうあってほしいのは我々の一番の望みでもありますし、私どもこれからも商工行政にあたっては、そうした小売店の皆さんや商工会の意見も大事にしながら、商工行政を進めていくのがもちろんだというふうに思っております。

ただ、私どもは今回の今お話がありましたように、私どもの熱意が伝わらない、拙速ではないか、あるいは住民に対する説明不足があるのではないかと、いろんなご意見、そしてまた叱咤をいただいたわけであります。

それらについては、これは私の不徳の致すところなのかなと、大変申しわけなく思っておりますけれども、何とかご容赦をいただく中で、議会の皆さんのご理解をいただければというふうに思っ

ておりますので、お願いを申し上げて、私からの答弁とさせていただきたいと思えます。

○委員長（前川雅志） 杉坂委員。

○委員（杉坂達男） 今町長からその決意といえますか、いわゆるこの企業誘致にかける熱意といえますか、理解を申し上げる部分たくさんございます。

ただ、町長もお話のように町道を廃止してこの町道を用地として提供するという、こういう循環になります、企業に対して。

そういった、大きな軸に対しても極めて関心の深いことでもありますし、重要なことでもありますから、心配な部分がたくさんあることもこれはご承知のとおりだと思います。

さらには、この誘致する過程で、企業側との間で担保すべき要件がなかったのか、あるいはそれから重要なことについてはどうお考えかですね、それは誘致してしまった後に、いろんなその決まった後で交渉を、あるいは協議をといるそういうその一定の仕組みも当然でありますけれども、誘致する以前の話の中でのいわゆる担保すべきような要件は、本件の中にはないのかということも敢えてお伺いしておきたいと思えます。

○委員長（前川雅志） 岡田町長。

○幕別町長（岡田和夫） 本件につきましては、私どもが誘致に出向いて是非来てくださいといった経緯ではなくて、もっとうこう2年、3年前から生協さんが幕別町へ進出したいという意向があつて、その間にいろんなこう経過があつて、最終的にはそれを地権者の皆さんとの話合いがついたと、そしてその後、あの地域を一体的に開発したいので、地権者周辺の皆さんが廃道を町に要請してきたというような経緯であります。

したがいまして、私どもは生協さんと直接会って、何と何と何をやらなければ私どもは協力しないとか、向うからこれとこれとこれを協力してもらえなければ立地はしないのだとか、そういう話合いというのは特にはありません。

唯一あつたのは、今言う町道を廃止することができなければ、なかなか設置はできないということではありまして、その町道廃止の申請は何回も言いますけれども、その地域の方がたから出されたということでもあります。

もちろんこの後、廃道になった後の道路整備をどうするかと、不便になる方がたくさんいらっしゃるわけですから、それを何とか少しでも解消するために既存の道路を改善しなければならない、あるいはできた歩道、車道の変わりになるような道路をどう確保するか、いろんなそういう環境問題だとかとかということについては、今後町としても進めていかなければならない問題であろうというふうに思えますし、住民の皆さんからの意向を町としても当然それなりに対応をしていくことは必要であろうと、そういうふうには思っております。

○委員長（前川雅志） ほかに。

中橋委員。

○委員（中橋友子） 関連もありましてお尋ねしておきたいということだったのですけれども、ただいまも町長からもお話がありました、今、杉坂委員の質問に答えてということなのですが、私も今日で審議は3日目なのですが、この審議の過程の中で、ひとつはその廃道によるいろいろな出てくる諸問題、環境整備、それらについては理事者側の答弁では、業者の責任で図面もいただいておりますが、その廃道に関わる安全対策を講ずるのだというお答えでありました。

それからもうひとつ、随分その住民の方の、住民の意見の中に、随分ではありません、住民の意見の中にその商業施設の設置の場所ですとか、建物の方向性ですとか、そういうことで圧迫感が生

じるであるとか、風通しが悪くなるであるとか、そういう声が出てきたとかということ、そういうことに対しては、今の時点で業者側にその住民の意向を聞いて、そして設置するそういうそのはらずもりのあるのかどうかということをお尋ねしたところ、それについても、その住民の声を聞く姿勢を持っているのだというお答えでありました。

それで、私はやはりこういうその廃道に伴うリスクを、業者が背負うそれなりの予算を伴うことになります。

それと、その住民の意向を聞くということもそれは事業者にとっては、当初描いていたその構図と変わってくる可能性があるわけですから、なかなか重いものであろうというふうに思うのです。

そうなりますと、簡単なその言葉のやり取りの中で、そうであったからということだけでいいのかどうかというその実は心配も過ぎるわけです。

そういう場合に、一定の協定書とまではいなくても、ある程度そういう方向性について文章でその業者側から、こういうことでやっていきたいのだというようなものについて、文章として残していただけるのか、提出していただけるのか、私は理事者側としてそういうものをきちんと求めて、当然住民の方のいろんな環境を変えるその不都合が出てくるわけですから、それについて今その杉坂委員の言葉をお借りすれば、担保いうことになりますけれども、それをきちんとその文章で交わすことが大事だと思うのですがどうでしょうか。

○委員長（前川雅志） 高橋副町長。

○副町長（高橋平明） 今の中橋さんのご質問、協定書という形でその要するにいろんな条件面の整備をとということでございます。

だいたい日常の中で今後のことにはなるのですけれども、当然町からその出店者に対しての意見書の提出なんかもございます。

その中で、町として当然こういう形で町民の要望も受け入れて欲しい、あるいはその付近にお住まいの方の思いをどのように受け止めて、どのように反映をする手法を取っていただけるか、そういった部分を、一緒に意見書の形の中にも含めることも可能だというふうに私は考えております。

また、今、中橋さんが言われたようにそれとは別な形で、出店にあたっての町との覚書みたいな形ですることも私は可能であるかというふうには思っておりますので、そういう方向で検討させていただきたいというふうに思っております。

○委員長（前川雅志） 中橋委員。

○委員（中橋友子） 可能であれば是非、できれば協定書というのが一番効果的だというふうに思います。

そのことを条件ということではありませんけれども、念頭に置いていただきたいということです。

それともうひとつ、これは前回の議論のときに、私は大型店同士の競合について質問をさせていただきました。

もちろんその、もうひとつは小店に対するその影響がこれについても、やはりないとは言えない、歪めないとは思いますが。

絶対出てくるというふうに思います。

それで、町でそのうってられる政策、今商業振興政策いろいろ考えておられるようですが、そのひとつに、空き店舗対策も入っているのですけれども、空いている店舗の対策ももちろん必要だと思いますが、現に営業されている人に対する対策、既存の商店に対する対策ですね、商店ですとか事業家、これらについても、やはりこういう札内に店を出店を町が廃道することによって、認めた

形になりますよね。

結局その後は大店法で来るわけですから、ですからそうなってくると、まちづくりに責任を持つ行政として小店に対する支援策もきちんと、いわばセーフティネット、ガードですよ、そういうことも視野に入れて応援策を講じていかなければならないというふうに思うのです。

その点では、具体的なひとつひとつということは求めませんが、そういうその考え方持っているのかどうか、それもお尋ねしておきたいと思います。

○委員長（前川雅志） 高橋副町長。

○副町長（高橋平明） 現に今年から始まりました空き店舗対策で、これが私どもが今進めようとしている、これのみで終わらせようとしているわけでも決してございませんし、今後いろいろな方からお知恵を拝借しながら、今、中橋委員がおっしゃられたように、現店舗展開をされている方いろいろな場面が当然あるかというふうに思います。

そういった部分についての町としてどういった支援ができるのか、あるいはどういった支援策を要望されているのか、そういったことを今、まさに商工会と話を進めさせていただいている、その最中でございます。

ですから、具体的な政策については、今後お示しできるというふうには私は思っておりますけれども、そういった部分に対しても、今後も力を入れていきたいというふうに考えているところであります。

○委員長（前川雅志） 中野委員。

○委員（中野敏勝） 商工会から出店反対、陳情書があがって来ているわけです。

前回までとは、審査状況がちょっと変わってきているのではないかというふうに思うのです。

廃道に伴って、開発について伺いますけれども、今回の案件というのは非常に重いものだというふうに感じておりますけれども、地域住民は商工会のことを考えれば、廃道の申し入れがあったときに拒否できたというふうな気がするわけです。

しかし、廃道の議案をあげてくるということは、町が開発に前向きであると捉えても仕方がないことだというふうに感じております。

地域住民も反対して、また商工会も反対しているものを、推し進めていくというこの理由とか、そういうものを先ほどから言っておりますけれども、もう一度再度お願いいたします。

○委員長（前川雅志） 高橋副町長。

○副町長（高橋平明） 先ほど町長から答弁がありましたように、この経済不況の中で町にとって活性化の対策、なかなか、例えば企業誘致ですとか、経済化の活性化対策、そう簡単に政策として実現できるものがそれほど数多くない時代でもあるというふうに私は感じております。

そういった中で、まさに土地利用の計画を含めて、出店をしていただける、こういった話について町はこれは積極的に進めたいということでご提案をさせて、廃道の提案をさせていただきました。

もちろん、反対の声があることも承知をしておりますし、そういった方がたに対しましても今後、ようすにご理解をいただきたい、で、環境が大きく変わることのないような、そういったことで計画を進めてもらいたいということで、この町にとってのメリットになる部分がかなり大きい、そういった部分の判断の上に、この提案をさせていただいているということでございます。

○委員長（前川雅志） 中野委員。

○委員（中野敏勝） 前回の委員会でも、地域商店街との客層が住み分けされ、それから顧客が奪われないというふうに経済部長の方から言われております。

しかし、昨日の商工会のこの陳情書を見ると、コープさっぽろ札内地区の出店に反対するこの陳情書ですけれども、議会にあげられましたのは、商工会としては大型店の出店は零細、それから小規模事業が多く加盟するため、会員への影響が計り知れないものがあるとまで言われているわけです。

経済部長の話、大きな差を感じますけれども、この点どうなのでしょう、影響というのはかなりあるのではないかと私は思っているのですけれども、お伺いいたします。

○委員長（前川雅志） 経済部長

○経済部長（飯田晴義） この間ご答弁差し上げたとおりでありまして、ある程度今の商業会、商店の住み分け、役割分担というのはこれはできているということは皆さんも恐らく同じ認識に立っているのだらうと、ただそういう中でも大型店ができることで、影響はやはり避けられない、ただその影響の度合いが、果たして将来に渡って、では何億でとか、いくらでということはこれはまだ計り知れないところであるというふうに思っております。

そういう中で、前段申し上げましたようにある程度住み分けができて、お得意さんを中心に固定客がほぼできている中での、影響度合いというのは計り知れないというほど大きいものではないというふうに、そういう認識を持っているところであります。

○委員長（前川雅志） 中野委員。

○委員（中野敏勝） 現在の都市計画の中で開発できる地域は、ほかにもあるのではないかとどうような気もするのですけれども、今回の開発は廃道をなくしてはできないのであれば、町としては地元商工業者への影響を考えれば、廃道を認めていくことにはならないのではないのですか、いかがでしょうか。

○委員長（前川雅志） 高橋副町長。

○副町長（高橋平明） 確かに、都市計画の土地の利用上でいいますと、ほかにも適地、適地といえますか商業施設を建てられるところはもちろんございます。

ただ、そこが今空き地になっているかという問題、もちろんこれもございますし、それらの土地を所有される方の地権者の方、そういったことをこれを今回話が進められたのは、多分に空き地が多かったということもありますし、それから出店されようとされる方が、その出店される場所を当然選ぶのは出店者であります。

おそらくその出店者にとって、そこが適地だという判断がされた上で出て来られるのだというふうに、私どもは判断されておりますので、これは前段申し上げたように、その土地のこれは廃道の問題がありますけれども、そこに出店をされることによるメリットと、当然私どもは廃道することによるデメリットも比較をさせていただいた上の結論でございますので、ご理解をいただきたいというふうに思っております。

○委員長（前川雅志） よろしいですか。

中野委員。

○委員（中野敏勝） 経済部長の方にもう1点お尋ねしておきますけれども、昨日、新聞に出て報道されているので、ほかの地域にも影響があるのだなというような気がするのですけれど、十勝東部の消費流入という発信もされているわけですね。

開発者側の予測なのかわかりませんが、この発言が報道されることによって、ほかの町村にも商店にこの影響を与えているのではないかとというような気がするわけです。

本町だけの問題ではなくなっているような気がするのですけれども、この点はどう感じていらっ

しやいますか。

○委員長（前川雅志） 副町長。

○副町長（高橋平明） 現実的な話で申し上げますけれども、消費流出、これ幕別町の町民が全て幕別町内で買い物をしているわけではございません。

ご存知の通り、帯広市、音更町、近隣町村、近隣市町村で消費は流出している現状でございます。

これは商工会もその判断をしております。

当然、これは十勝管内、要するにその商圈エリアといいますか、その商圈エリアの中にある方は、当然動かれるというふうに私は思っております。

単に幕別町の問題ではないとおっしゃいますけれども、放っておくと幕別町の消費が、他町村に流出することを防げないということにも繋がりがねないというふうに私は判断しておりますので、そういったことをご理解をいただきたいというふうに思っております。

○委員長（前川雅志） よろしいですか。

中野委員。

○委員（中野敏勝） いろいろ答弁をいただいておりますけれども、この件についてもっとやはり調査をしたり、考えたりすることが必要だと思えます。

判断にするにあたって、時間がもう少し必要ではないかというふうに思いますので、継続を、継続審査というか、それを求めたいと思えますがいかがでしょうか。

○委員長（前川雅志） ただいま、中野委員からそういう発言がありましたが、質疑の途中でありますので質疑を続けたいと思えます。

ほかに、質疑ある方はお願いいたします。

芳滝委員。

○委員（芳滝 仁） この間ずっとお話を聞かせていただいております、中橋委員のお話も先ほどの杉坂委員のお話もありましたが、その店が出てくるための前提のようなお話には私は聞こえてならないのであります。

私は個人的には、店出る出ないは経済活動ですから、そのことに関しては、そのまた私の考えがあります。

でも、それ以前にそのあの地域の住民の考えなり、意識なりが全然この間変わっていない。

却ってその感情的になって、その改善をされるどころか、なおそういう思いを深められているのではないかと、そういう上で、店が出るから、環境がこうだから、ああだからという議論をその方がたが聞いたときに、どういう思いをされるのだろうか。

これはある意味では、住民不在というかそういうところでの、私は議論にはなってはならないのではないかという気がするわけです。

店出る出ないの前に、やはり町のつくり方として、やはり協働のまちづくりという形のことも上げていращやるわけでありますから、そういうそのスタンスのところを、どうもいろんな議論を聞いていたらぼやけてしまっているような気がするわけです。

例えば、前回説明会のときにご説明していただいたこれがありますけれども、歩道と例えば自転車の安全の配置というようなことで黄色のところ書かれてありますが、出入り口の前を通っているのですね、これが。

道がなくなるからということで、配慮されてこういうふうな絵を描いたのだと思うのですがけれども、現実的に出入り口の前にその自転車が通るその歩道を設置して、現実的になるのかどうか、あ

とその10メートル道を開けられたというのですけれども、開いたからそれでいいのかと、どうも私はそのこの辺のその配慮のなさと申しますか、例えば10メートル開けるのであれば、この隣接するやはり方がたもいるわけですから、地権者もいらっしゃるわけですから、その辺とのひとつの話の中で、道を開けると、広げるというふうな形のそのアプローチの仕方の中で、理解を求めていくというふうな方法を私は取るべきではないのかと。

不便になるから、広くしたのだからこれでいいのだろうという言い方は、非常に私は傲慢な言い方ではないのかなと、住民に対してですね、行政としてその店出る出ないについては、私は申し上げないのですけれども、この進め方に対して非常にその辺で疑問を感じるところがあります。

それはやはり現状その説明会、議会の説明会開かれて、その状態はいろんな状況がわかってきて、多少は気持ちを変えていらっしゃる方もいらっしゃるのだろーと思えますけれども、やはりその多くの方々は全然その議論が始まってから、町からのアピールもなければ、議会、委員会としては調査に行ってその姿勢を示しているわけですけれども、汗をかいていないと、どのようにその住民の理解を得ていこうとするのかと、廃道を決まったから、いよいよこれから説明に行くのだと言っても、それ耳貸してくれるのかどうか。

私はその辺のそのアプローチの仕方と申しますか、その辺について杉坂委員がおっしゃったように、努力をしてもらいたいというそういうその思いでいっぱいあります。

やはりそういう意味で、大きなそのまちづくりのことを考えるときに、そここのところを知っておこうとしなければならぬのではないのかと、そのものを聞いていたら、何か店を出すための条件づくりのような議論になっているような気がするのです。

その辺が私はこの間聞かせていただいて、妙にその地域の方がたと段々とその議論が、乖離していつているというふうな気がしてならないというところでもあります。

そういう思いがあるとことを、町長に申し上げておきたいなというふうなことでございます。

どういう思いでいらっしゃるか、ひとつお聞かせいただければと思います。

○委員長（前川雅志） 岡田町長。

○幕別町長（岡田和夫） 私は先ほども申し上げましたように、まちづくりを進める上で、それなりの必要な施設であろうというようなことの判断で今回提案をさせていただきました。

もちろん私どもは、決して代わりの道路を作ったから、それでお前らは我慢しれだとかそんなような思いは毛頭ございません。

何とか廃道を認めていただく中で、それに代わるものとして少しでも利便性を高めるために道路も改善しなければならぬ、あるいは店の前で事故らないように、安全な為にも歩く人、あるいは自転車の人の通路も確保していかなければならぬ。

そんな思いでありまして、決してその地域をないがしろにした、あるいは店を持ってくるために、お前らに我慢すれとかそういうような思いでは私は思ってはません。

ただ、何回も言うように廃道がなければ、その店ができないというそこに今、今回も大きな問題があるというふうに思えますけれども、これは今言ったようにただただ、ご理解をいただきたいというしか町としてはないのですけれども、そうかと言って、今お話あったようなお店をせっかく進出したいといったときに、あるいは地域の皆さんからの大きなこう期待がある中で、町として全くそれは駄目だというようなことになるのかというふうになると、私はまたそうではない、逆に大きな声もまた上がるのだろーというふうにも思っております。

私としては、ご不便をかけること、あるいは環境が変わってくるようなこともあるのだろーとい

うふうに思います。

大変ご迷惑をかける部分については、先ほども申し上げましたように今後とも町としても、行政の立場からも当然期待に応えるように、環境悪化にならないように十分、意を用いていくことが必要であろうと、そういうふうに思っております。

○委員長（前川雅志） 芳滝委員。

○委員（芳滝 仁） 町長の思いは、よく理解はできるのであります。

その思いがその地元の方に届いていないのですよね、現状。

今そのご不便をかけるから、道を広くして、使いやすくさせていただくのだというふうな町からのそういうひとつの説明のされ方が、やはりそのある意味では、説明会を開いてポンと言うのだけではなくて、地域の方がたに具体的にそういう思いを理解いただけるような、私は形をまず取るべきではなかったのかなという気がするわけでありまして。

思いは全く理解をさせていただくところなのでありますけれども、現状その点が、町長の目が届いていないのだということが、私はあろうかと思うことでございます。

○委員長（前川雅志） 答弁はいらぬですか。

ほかに質疑ございますか。

中橋委員。

○委員（中橋友子） 質疑というよりは、私今、芳滝委員がその廃道ありきで、条件闘争というようなことがお話がありましたので、何か正確に委員として自分の判断といいますか、ちょっと申し上げておきたいなというふうに思ひまして、ちょっと発言させていただきます。

それで、実は私はこれまでもずっとその大型店の在り方については、町にも意見を述べさせていただいてきました。

この10年間の間の様ざまな閉鎖については、これはもう今委員会でも、それから別な場所でも、他の委員さんからもお話があったところです。

そういう状況の中で、今回その廃道の提案と同時に、地域住民の方から、最初にその廃道反対というその署名が提出されました。

その重さを受け止めて、どう判断するのかもうこれ以上、本来はスーパーはいらないぞという思いもありまして、それでそういうその住民の方がいらっしゃるのであれば、やはりその住民の人が反対する以上は簡単に賛成できないだろうという思いから、実は私ども会派として現地の調査に入らせていただいたのです。

全員に会ったわけではありませんから、今その芳滝委員がご指摘されるような、そういう思いでいらっしゃる方も現実にはいらっしゃるというふうに受け止めます。

同時に本当に私が意外に思ったのは、そういったその状況の渦中にいらっしゃる、特にその開発を進めようとするその地権、隣接されているところにいらっしゃる方たちの声を、つぶさに聞いてきたのですけれども、そこでその意外だったというのは、この間もお話したように、その国道の北側にお店がないから是非つくって欲しいのだというのが共通した意見だったのです。

どうしてこんなに共通に出るのだろうかということを、思ってみればやはり札内の北側というのは既存のその商店が実は過去にはあったのですけれども、この10年間の経済状況の変化の中で、皆その店を閉めていってしまって、コンビニはありますけど、お店がなくなってしまったのです。

それで、住民の方たちがそのお店が欲しいのだということだったのです。

率直に私たちもその出店される方は、そのお店が欲しい、建てる以上はその目の前の道路を廃

止してそしてその出店というふうに言っているのだけれど、そのこと自体はどうなのだろうということをお尋ねしましたところ、それに代わる安全政策を取っていただければ理解するのだというのもこれも多かったのです。

隣接するところ、全く駄目だというのは商売の関係で、その1件ありましたけれども、その方もきちんとした安全対策取ってくれればいいのだという、こういう住民の声だったものですから、そこで私たちもこれは今までの思いを変えて、きちんと協議をして望まなければいけないぞということになりまして、議員団としても随分協議を重ねてきたのです。

それでその安全対策を取ってくれればいいのだという、そしてお店は欲しいのだということになれば、では安全政策は本当に取ってもらえるのかどうか、事の原因が起きれば、原因者がやはりきちんとすべきではないかというようなところまで繋がったものですから、それで先ほどのようにこういう廃道に至っては、安全策というのはきちんとその担保として取れるのかということに繋がったのです。

だから、決してそういうその反発される住民の皆さんを無視して、その発言をしているということではなくて、そういう流れがあったものですから、そして確かに直接反対されている方ともお電話ですけれども、お話もされました。

そこでもやはりスーパーそのものについてのことではなしに、廃道そのものがどうかということだったのです。

委員として考えるときに、まずはその廃道を出されたら廃道のことを真剣に考えます。

でも、その背景にあるそのなぜ廃道が出されてきているのか、廃道後の利用がどうなのかというようなところも、きちんとその見極めて判断をしないと誤るところだと思うのです。

ですからその商業施設というようなことも含めて、やはりここでは議論をさせていただいたし、消費の流通や経済効果や全部そのお話をさせていただくのは、やはりその結論を出すためには、その後にも責任を持たなければならないという思いもあったものですから、今までの審議をさせていただいたところでは、

これは、理事者に答弁を求めるということではなくて、今その自分が委員としてどう責任を果たすかという立場に立ったときに、そういう経過があったものですから、聞いていただきたいと思ってお話をしました。

以上です。

○委員長（前川雅志） ほかにございませんか。

杉坂委員。

○委員（杉坂達男） 今、中橋委員からもご意見があったとおりであります。

私もその思いは同じであります。

非常に私もこの経済効果が、1億6,000万余りというふうな概算をできるような状況も組み立てて構造的になっているところに、今、残念だというふうに感ずるのは地域の皆さんに理事者、いわゆる行政の方からの説明が足りなかったとか、あるいはいろんな条件整備が整っていないとかというふうなことを意見として出されるということについては、では何が原因であったのか、そういうふうなことを考えてみれば、大変失礼な話ではあるのですが、行政の誠意とそれから丁寧さ、これが若干、あるいはそれ以上に足りなかった部分がなくはなかったのではないかというふうな思いをいたしております。

この丁寧さ、誠意などというのは、これは基準のない住民の皆さまの物差しであります。

よくご覧になっていると思うのです。

ですからその辺の過不足が整理されていくというような、そういう思いで今後この事業を推進できれば私は本町にとっては、この機会を逃すべきではないのように思います。

先ほど私は1億6,000万の経済効果と申し上げましたが、これは消費の間違いでした。

そういうチャンスでありますから、その繰り返しで恐縮なのですが、行政の誠意、そして丁寧さこれらが仮に私も申し上げているように、ちょっと不足だったなど、あるいは不足だったなどというふうなことをお思いであれば、今からでも遅くありませんか。

私はそういう思いで、この事業の推進にあたってもらいたい、このように思います。

○委員長（前川雅志） 岡田町長。

○幕別町長（岡田和夫） 冒頭にも述べましたけれども、今回の議案の提出させていただいて大変こう議員の皆さまや、あちこち住民の皆さまご迷惑をかけたと、私の配慮が足りなかったのだろうというふうにも思います。

ただ、私どもといたしましては、こうしたこう大型店が出る、ある意味では企業が進出していただけのこういうような、そう多くの機会はそうないのだろうと、おそらく今回これを逃せば、もう2度と幕別にはそういったお店が、大型店が来るということは考えられないのかなと、そんな思いも実はしております。

そうした中で私が短絡的だったのかもしれませんが、地域から地権者が了解し地域が廃道してくれれば、一体的に開発して店ができるのだからというようなそんな思いがあったものですから、私どもも内部で検討した中で、議会の理解をいただけるようにとのことで、議案を出させていただきました。

これからも当然、もし議決をいただいて実際こう実施にあたっては、十分こう町としても地域の皆さんに誠意を見せながら対応をしていきたいと、そういう思いであります。

○委員長（前川雅志） 芳滝委員。

○委員（芳滝 仁） 店が出てきてはいいのだけれども、道は困るという方がたが、その例えば署名をされた中にも多くいらっしやいまして、その廃道イコール店が出店が反対なのだとということでは、大まかですね、多くの方々がそうではないのですね。

その署名された方がたも、話も聞かせていただきましたら、やはりその店が出るのがいいのだけれども、道がなくなったら困るのだという、そういうようなことが多かったようなことであります。

その辺のその住民の、いわゆる住民感情と申しますか、住民の意識があろうかと思うのです。

私はそういう現実の、中橋委員も回られて、その方聞かれていると思うのですが、そういうところのこう素通りもししていないのでしょうか、きちんとキャッチをした上で進めていけば、何でもかこういう質疑もしなくてよかったのではないかというふうなその気がするところでもあります。

そういう現状、まだ、そのいびつな現状で町民、住民がいるのだというところで、こういう短期間でパタッとこう議会として、決まってしまうといいのかどうかというそういうそのいわゆる住民の代表で私たちは出させていただいている立場でありますから、大きなまちづくりのこともありますよ、その辺もいづいところがあるのですけれども、町長のおっしゃることは、十分理解をした上でもう少しその住民の理解を得れるような、多少と期間なりアクションと申しますか、町長がおっしゃった今思いをこうある意味ではその届けていけるような、そういう期間が私は少し必要なのではないかなというふうなその現状とこの議場を見たときに、そういう気がしてならないことでもあります。そういう思いだけ申し上げておきます。

○委員長（前川雅志） ほかにございますか。

なければですね、先ほど中野委員、芳滝委員の方から現状をもう少し見てというのがありましたので、今日のところの質疑は打ち切らせていただきたいと思います。

説明員の方、どうもありがとうございました。

説明委員の方の退場がありますので、暫時休憩いたします。

4時半まで休憩いたします。

(16:12 休憩)

(16:28 再開)

○委員長（前川雅志） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

本件につきまして、ご意見のある方、いらっしゃいましたらどうぞ。

中野委員。

○委員（中野敏勝） 理事者の方からもいろいろお話を聞きましたけれども、町の発展、それから商工会のそういう商業の発展というか、そういうものを含めても住民の理解をさせながら作っていくというふうな考えが強いわけです。

それであるならば、杉坂委員がこの15日に言われたように、住民にこの理解をさせていくというような努力はどのくらいされるのか、昨日、今日であればできないわけですから、もう少し期間を置いてその様子を見ながら、委員会として判断していきたいというふうに思いますけれどもいかがでしょうか。

○委員長（前川雅志） 中野委員からご意見ございましたが、杉坂委員。

○委員（杉坂達男） 休憩を求めます。

○委員長（前川雅志） 暫時休憩をいたします。

(16:29 休憩)

(16:37 再開)

○委員長（前川雅志） 休憩に前に引き続き、会議を開きます。

先ほど中野委員の方から、まだ時間をいただきたいという発言がありました。

この件につきまして、会期内の延長をしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(なしの声あり)

○委員長（前川雅志） なければ、議案第46号、町道の路線廃止及び変更については会期内の延長とさせていただきます。

付託されています、陳情第10号、町道豊町16号通廃止反対の陳情書並びに陳情第11号、コープさっぽろ札内店出店の早期実現を求める陳情書及び陳情第23号、コープさっぽろ札内地区出店に反対する陳情につきましては、関連する陳情でありますので会期内での継続審査とさせていただきます。

○委員長（前川雅志） 引き続き、陳情第8号、パークゴルフ場「エルムコース」の復元についてを議題といたします。

先日の委員会に引き続き、ご意見がある方は挙手の上、発言をお願いいたします。

○委員長（前川雅志） ご意見は前回で出尽くされたということによろしいでしょうか。

なければ討論を行います。

まず、反対の討論はありますか。

斉藤委員。

○委員（斉藤喜志雄） 前回は申し上げましたけれども、私は現地を見てよかったなと言いました

けれども、それはどういうことかと言うと、その非常にこう長い間のこの自然がしっかりと保存されている場所というのはそんなにはないですよ、これ。

そこの新田の森のあそこがそうかなという感じがする。

それに匹敵するような素晴らしい環境の中で、大変こう陳情者の方には申し訳ないのだけれども、事実上パークゴルフ場が、パークゴルフとしてのあれが位置づけが8割かた、あそこが確保されているというところで、やはり同じくあそこに障害者施設、それから白人小学校、札内東中学校の中に特殊学級があつて、そういった子どもたちが非常にそのやはり運動もできない、しかしそういう自然豊かなところでしっかり遊ばせてやりたいという、現に遊んでいる子どもは少ないとは言えども、遊んでいる子どもたちもいる。

僕は、ある意味ではもうちょっと環境を整えてやったら、もっともつとあそこが利活用されるのだろうと逆にそう思うくらいなのです。

しかし、またお年寄りがそうやって楽しんでおられるということも、これまた事実でありますから、そういう意味では非常にこういう知恵を働かせながら、本来はなくなることだったようにちょっとお聞きをしているところですが、そこをああやってお互いにこう、お互いの思いを大事にしながらかつて折衷案的に作られているという意味では大変申し訳ないけれども、そういう恵まれない子どもたちが、木陰で憩いの場としてのそういう機能を十分備えた大変いい場所ということを含めて、確保してあげたい。

なお、途中でお話を聞いていたら平坦なコースばかりだけれども、唯一その子どもたちが遊ぶ場所になっているところが、傾斜がついていて、大変そこがまたスリルのあるところであるのだという楽しい、やるものにとっては楽しいところなのだということでありましたので、向こうの3ホールを例えば、回復してあげるのだとすれば、逆に今度うんと木陰があつて、もつとこう環境のいいところを3ホールを例えば譲っていただくとかというそういうところも含めて、是非、ご理解をいただければというふうに思っていますし、そのまま残すのだとすれば、この間も申し上げましたけれども、フェンスを作つてあげる。

そうすることによって遊んでいる人、ごめんなさい、プレーをしている人たち、プレーをしている人たちの何というのでしょうか、邪魔にもならないし安心してできる、プレーができるというそういう観点も含めて、これは町が少しく努力をしていただければ、お互いにまた更にいいのではないのかなと、こんなふうに思っているところです。

○委員長（前川雅志） 次に、賛成者の討論の方がいらっしゃいましたら。

（なし。）

ほかに討論はありませんか。

○委員長（前川雅志） なければこれで討論を終わります。

これより採決をいたします。

本陳情を採択とすることに賛成の方の起立を求めます。

起立、少数であります。

起立、なしであります。

したがって、本陳情は不採択とすることに決定いたしました。

暫時休憩をいたします。

（16：43 休憩）

（16：44 再開）

○委員長（前川雅志） 休憩を解いて再開いたします。

次に、次回の委員会の開催についてお諮りいたします。

次回委員会を6月18日午後1時半から開催したいと思います。よろしいですか。

次回委員会は6月18日午後1時30分から開催いたします。

○委員長（前川雅志） ほかに何かございませんか。

それでは、本日の案件は終了いたしました。

これをもって、本日の委員会は散会いたします。

(16:46 閉会)